

久工大ニュース

窓 第2号

発行日 平成 20 年 6 月
久留米市上津町 2228-66 広報課
TEL (0942)22-2345 (代表)
FAX (0942)21-8770
<http://www.kurume-it.ac.jp>

工学への興味が高まるセミナー講義

交通機械工学科



交通機械工学科では新入生の皆さんに有意義な学生生活を送ってもらえるよう、工学への興味が高まる「フレッシュマンセミナー」という講義を行っています。このセミナーでは、交通機械工学科で学ぶ自動車の「エンジン」、「空力デザイン」、「サスペンション」、「構造」、「カーエレクトロニクス」などに関する最新トピックスの紹介や、自動車技術の集大成であるフォーミュラレースの観戦などを行っています。今年も 4 月 26 日(土曜日)に上津江町オートポリスにて「2008 年全日本フォーミュラ 3 選手権第 3 戦」を観戦してきました。メインスタンドから観戦した新入生諸君は、目の前のストレートを凄まじい勢いで駆け抜けるフォーミュラカーを食い入るように見つめ、自動車工学の奥深さや素晴らしさを肌で感じていたようです。

ドイツで感じた環境意識 ~海外研修で学んだこと~

環境共生工学科 4年 大場武典



県内外の企業や市町村の取組みについて視察してきたフィールドワークのまとめ「世界の環境」として、昨年 11 月上旬に 7 泊 8 日の日程で、環境先進国ドイツの中でも環境首都と呼ばれるフライブルク市とハイデルベルク市を訪問しました。参加者は学生 13 名と引率教員 2 名の計 15 名です。

フライブルク市の研修では、現地コーディネーター篠崎誠氏の案内で多くの環境関連施設を視察し、環境に負荷をかけない工夫を学びました。移動にはトラム(路面電車)やバスを利用しました。両市共に小さな都市ですが、日本の大都市並みの交通網があり、1 枚の定期券でバス・電車全て乗り放題など利便性の高さに驚きました。

街の中では自動販売機に併設してあるデポジット機にペットボトルを入れるとお金が戻ってきて不思議に感じたり、買い物には袋を持っていくのが当たり前なのに手ぶらで行って困ったりと、日本ではまだなじみのない環境対策が、ドイツでは習慣として市民生活に浸透していること身をもって体験しました。日本とは文化的に異なる点が多々あり、そのまま全ての対策や習慣を取り入れることは難しいと思います。良い対策は認め、取り入れていくことに環境問題を改善していく鍵があると今回の研修を通じて感じました。

「九州ゲーム企画塾」に参加しての感想

情報ネットワーク工学科 4年 植野真美子



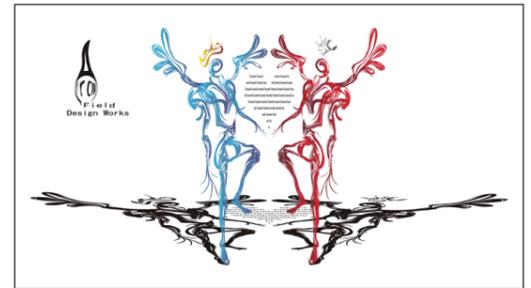
元々ゲーム制作に興味があり、本場の方の話を聞きたい・ゲーム作りの工程を知りたいという気持ちからゲーム企画塾に応募してみようと思いついたのがきっかけです。今考えると、応募の際には自作の企画書の提出が必要となっていて、もうその時から「企画」についての勉強だったように思います。

毎週火曜日、計 10 回の企画塾でした。参加してみればとても時間が短く感じ、もっと講師の方の話を聞きたかったなと思います。企画書と云う書類の書き方は勿論のことですが、ゲームを作るに当たった考え方・視点の違い等とても視野が広がったように感じます。今ではプレイするゲームを解析するようになりました。他の参加者の企画書を拝見させていただいたり、プレゼンをやったりと、本を読んで企画書の書き方を勉強するだけでは判らない事も沢山教わった気がします。ここで教わった事を糧に、ゲーム製作についてこれからもどんどん深めていきたいと思っています。

※「九州ゲーム企画塾」は未来のゲームクリエイターを育てることを目的として開催され、本学科からは植野真美子さん、園田智之君、橋本絵里奈さんらによる企画書が競争的選考の結果、採択されました。

情報ネットワーク工学科からのお知らせ「最新ビジュアルテクノロジー機器を導入」

情報ネットワーク工学科では、この夏、最新の機器およびソフトウェアを導入します。学生の皆さんが授業に使用するコンピュータは、複雑な計算や 3 次元形状データを高速に扱える高性能機器です。また、ソフトウェアは、Autodesk 社の Maya および Adobe 社のデジタルデザインのための最新版ツールを導入します。Maya は映画界やゲーム業界でも使用される世界最高峰の 3DCG ソフトウェアのひとつです。これにより、流体の表現や物理シミュレーション、高度で有機的な形状データの制作など、先端的コンテンツの作成が可能となります。これらを利用した基礎教育の他にも、ゲームを作成したり、プログラミングでデジタルグラフィックスを生成するなど、高度応用を目指した特色ある実践教育を行っています。



CG 演習 1 制作課題による作品
情報ネットワーク工学科 3年 矢野 大幾

鶴田一郎客員教授 特別講演を開催

「二十一世紀の歌麿か？」 鶴田一郎の感性について

本学では、1 月 18 日当大学のホールにおいて学生・教職員 300 名を対象に鶴田一郎客員教授による特別講演会を開催しました。講演では「学生が豊かな感性と表現力を備えさせたい」との思いから、多摩美術大学卒業後、ブックカバーやレコードジャケットなどを手掛けたフリーイラストレータ時代から教授独自の美人画の創作に至るまでの経緯を、苦労話などを交えながら作品とともに紹介しました。特に美人画では、東洋人独特の目元や指先に特徴を置きそれを全体の構想のなかでいかに美しく表現するかが大事であり、これらのセンスは将来技術者を目指す学生にとっても意義のあるものとなるであろうとの説明がありました。また、常に現状に満足することなく真摯に芸術に向き合い努力するという姿勢を示されました。



発見 創造 感動

オープンキャンパス 2008

- 学科別相談コーナー
- 入試相談コーナー
- 体験学習
- 学食ランチ体験
- 学生フォーミュラ試走 (8/3・9/20)
- 電気自動車試乗会 (9/20)



7月5日(土)
9:30~15:00

8月2日(土)
9:30~15:00

8月3日(日)
9:30~15:00

9月20日(土)
9:30~15:00



* 詳細は本校の Web サイトをご覧ください <http://www.kurume-it.ac.jp>

インターンシップ報告

ダイハツ自動車九州株式会社 生産技術部プレスボディ生技室

交通機械工学科 3年 坂井達郎



インターンシップに参加する以前の私にとって生産技術という業務は、安全を最優先し、時間効率のよいラインを流すことだと思っていました。しかし、5日間の研修を通じて、私のこの考えは全体の業務のほんの一部であることに気がつきました。生産技術とはものをつくるために「最適な方法を選ぶ技術」であり、技術と同様に「多くの経験」も必要であることが理解できました。この研修で特に印象に残ったことは、ロボットの動きや配置、部品の保管場所、製造に係わる人員の安全や職場の環境作りなどが緻密に計算されていたことです。

また、製造現場がストップした原因などの失敗事例を記録し、常に現場の改善を心掛けている姿勢は、今後の自分の行動にも活かせることだと思いました。生産技術という分野は、大きな責任を必要とされる大変な分野ですが、他の分野に比較して非常に達成感があるということに従業員の方から伺いました。従業員やロボットが滞りなく作業し、1台の車が完成した時や街中で自社の車を見かける度に、自分がこの車の一部に携わられたことの達成感や充足感を感じるそうです。今回の研修で生産技術のおもしろさや厳しさが理解できました。この経験を今後の就職活動や人生に役立てたいと思います。

産学連携

久留米工業大学は、ダイハツ九州と産学連携協定を結んでいます。

久留米工大、ダイハツ九州と年内に産学連携協定 日刊工業新聞 2007.8

久留米工大、「ダイハツ」で実践教育 日本経済新聞 2008.2.22

ダイハツ九州には、交通機械工学科以外の学科からもインターンシップに参加しています。

就職活動の報告

就職先：オムロン株式会社

機械システム工学科 白石研究室 4年 谷川慎



私は就職活動を通じ、明確な目標を持つ、自己分析の大切さ、自分らしくいる、この3点が重要だったと学びました。

私は、今年の年明けから本格的に就職活動を始めました。ヤフードームでの合同説明会や、学内での説明会に参加したりしましたが、あまり自分の中で形にすることができませんでした。むしろ、活動に参加するだけのような感じでした。それは、まだ自分をよく知らず、明確な目標をしっかりと自分の中に持っていなかったせいだと思います。

それから、まずは周りに私の気付かないような私を教えてくださいたいという相談したり、やりたいことをもっとしっかり考えたり、調べたりすることから始めました。そんなとき、たまたま先生から企業を紹介してもらいました。

調べるうちに自分の描く夢に近いものを感じ、それからその企業一本で活動を始めました。筆記や面接試験を通し、しっかりやりたいことを伝えたり、熱意を分かってもらうには自分らしくいることが大事だと思いました。これは友人に言われたのですが、面接の練習中、最初はロボットのような口調で、硬いと言われました。そんなとき、「面接するのは、硬いものじゃなくて、会話を楽しむもの。自分らしくいることが、一番大切だ！」と言われました。その真意が分かったとき、私は自分らしさを発揮できたと思います。

人は、先に進むとき、必ず何かしらの指針を持ち、それに向けていくと思います。私は、せっかく選んでもらったものとして、今の気持ちをずっと忘れずにいたいと思います。「シン」の無い人は、つまらないですから。

最後に、面接の指導や、数々の支援をしてくださった先生方、夜中遅くまで面接の練習に付き合ってくれた友人たちに感謝します。ありがとうございました。

久工大ニュース発行について

この度、久留米工業大学の情報を満載した久工大ニュースの第2号を発行することになりました。高校生みなさんに、年に2~3回久留米工業大学の最新のニュースを無料でお届けします。ぜひ、この機会にお申し込みください。

編集：広報課

紙面デザイン：情報ネットワーク工学科 講師 河野央

申込先：久留米工業大学 広報課

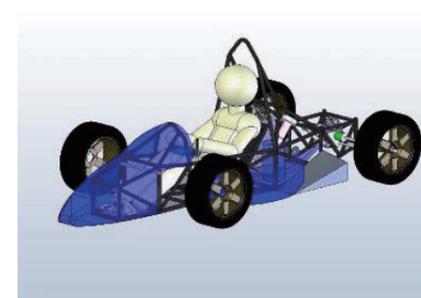
TEL (0942)22-2345 (代表)
FAX (0942)21-8770
<http://www.kurume-it.ac.jp>

第6回全日本学生フォーミュラ大会に向けて

久留米工業大学フォーミュラプロジェクト

代表 西嶋 拓也 (出身校 下関中央工業高校)

私たち久留米工業大学フォーミュラプロジェクトは、2005年11月にチームを結成し、今年で3年目を迎えます。昨年の9月に静岡で開催された第5回全日本学生フォーミュラ大会に大会初参加をしました。学生フォーミュラ大会とは、学生主体のチームがフォーミュラマシンを設計、製作し、1年に1度開催される大会で競技を行います。ただマシンの速さを競うだけでなく、マシンの設計において工夫したポイント、製作コストをどれだけ抑えているかといった審査もあり、ものづくりの総合力を競う大会です。現在の私達の活動状況は、今年の9月に行われる第6回全日本学生フォーミュラ大会に向けてマシンの製作に励んでいます。昨年度の大会では思うような成績が出せなかったため、今年度は上位を狙えるマシンを製作しようとメンバー一丸となって活動しています。今年度のマシンは、軽量化と出力増加を意識した設計をしています。マシンの骨組みであるフレームを2月に完成させ、現在はエンジンのセッティングに力を注いでいます。4月に新一年生のメンバーも加わり、少しずつ作業に慣れてきた様子で今後が楽しみです。第6回全日本学生フォーミュラ大会において上位を狙うことが、現在の私たちの目標ですが、この活動が久留米工業大学の実践的なエンジニア育成の場として伝統の活動になることを目指して活動しています。



『久留米学生まちづくり集団』をご存知ですか？

建築・設備工学科 4年 林崇裕

久留米には自然の豊かさ・充実した医療機関・多くの学校(学生)など大きな魅力があります。そこで、その魅力のひとつである学生達が“久留米市のまちづくりに若者のアイデアを発していこう”というスローガンのもと本学の先輩が中心となり結成した集団が『くるめ学生まちづくり集団』です。

私達は月に1~2回行われる会議の中で、学生の視点から見た自由な発想で久留米のよさを引き出していこうと話合いを重ね、学生が参加したまちづくりを目指して活動をしています。そして、昨年の12月22日には“くるめのまちをローソクの光で照らそう!”との発想から学生の若い力と“ほとめき隊”の方々の力が集結し『ほとめきクリスマスキャンドルライト2007』を開催することができました。今後も私達学生の若いエネルギーで学生が参加したまちづくりを目指し、ひとつひとつ実現へ向けて取り組んでいきたいと考えています。



ロボコン大会への参加計画

代表 機械システム工学科 1年 大本佳佑

ロボットコンテストは最近種類も増え、大変注目を集めています。本学機械システム工学科にはロボティクスコースがあり、ロボットを製作するための設備や工作機械は十分整っています。また、ロボティクスコースで学んだことを活かす場としてもロボットコンテストは絶好の場所だと思っています。私たちは以前からロボットに対し興味があり、機械システム工学科に入学してきました。入学したばかりで何もわかりませんが、大学4年間を使ってロボットコンテスト出場、あわよくば入賞・とを考えています。現在の目標はNHK大学ロボコン及びABUアジア・太平洋ロボコンに出場することです。9月に競技内容発表があり、12月の第一次選考会(書類審査)への応募を考えています。また、夏休みに九州大学や福岡工業大学などと交流を行い、ロボコン経験者のアドバイスやノウハウなどの技術的な話を聞き、経験を積んで行きたいと思っています。

